校長から宗高・宗中のみなさんへⅡ ㉖

令和２年１２月１１日（金）

「理屈やなかろうもん」

― 追悼 中村 哲 先生 ―

先週金曜日、１２月４日は中村 哲 先生がアフガニスタンの地で凶弾に斃れられてちょうど１年目、１周忌の日でした。１２月４日には、ＮＨＫで中村 哲 先生の追悼番組「理屈やなかろうもん ～医師・中村哲 ７３年の軌跡～ 」が放映されました。

中村　哲 先生の功績については、改めてみなさんに紹介するまでもなく、ほとんどの人がよく知っていることと思います。先生の「生き方」と共に文字通り「偉大なる（すぎる）功績」という言葉に尽きると思います。

登山好きだった中村先生は（古賀市と宮若市の境にある西山が中村先生の登山の原点です。）、九大医学部を卒業後、医師になってからも登山を続け、１９７８年、７０００M 峰のティリチミール登山隊に帯同医師として参加された時の経験が契機となり、１９８４年、パキスタン･ペシャワールへ赴任されています。その後２０年以上にわたってハンセン病患者の医療活動や山岳医療に従事した後、アフガニスタンへ活動の場を移し「１００の診療所より１本の用水路を」と灌漑事業に取り組まれ、アフガン大旱魃（かんばつ）をきっかけに２００６年までに１６００本の井戸を復旧・掘削されました。並行して２００３年からは、元来のアフガン農村の復興こそが健康と平和の基礎であるとの考えのもとに、砂漠化した田畑を回復するため「緑の大地計画」による灌漑用水路の建設に邁進されることになります。そして２０１０年には総延長２４．８ｋｍ、１日送水量４０万トン、灌漑面積３１２０ヘクタールに及ぶ灌漑用水路の完成を見ます。その結果、砂漠化し荒れ果てた大地は、緑の農地へと生まれ変わり、アフガン農村は復興を遂げ、６５万人の人々の生活を支えるようになったのです。

こうした中村先生の活動の広がりは、現地に生活し、その実態から、飢餓や貧困、病気等の問題の本質を見極め、そうした問題の解決のために必要とされることに取り組まれた軌跡に他なりません。「唯一の譲れぬ一線は、『現地の人々の立場に立ち、現地の文化や価値観を尊重し、現地のために働くこと』

である。」という先生の言葉から、医師でありながら、灌漑用水路建設のための土木や農業を学び、自ら現地の人々と共に作業に従事してこられた先生の行動の本質を伺うことができます。

こうした行動の根底に、幼少期に祖母である玉井マン（祖父・玉井金五郎と共に火野葦平「花と龍」のモデル）から受けた**「率先して弱いものをかばえ」「どんな小さな命も尊べ」**という教えが、「自分の倫理観として根を張っている。」と先生自身が語っておられます。こうしたメンタリティの先生にとって、アフガニスタンの現地で、旱魃や内戦に苦しんでいる人々を目の当たりにした時、医療、井戸の復旧・掘削、灌漑用水路建設というすべての行動は、先生自身、決して特別なことをしているという思いではなく、そこに困っている人たちがいるから、そこに苦しんでいる人たちがいるから、ごく「当たり前」のことをしているということだったのではないでしょうか。**日本のシンドラーと言われる杉原千畝と同じように、自分のやってきたことを決して声高に語られない**先生の姿がそれを物語っていると思います。私は、そこに先生の「生き方」を見て、その偉大さを感じずにはおれません。

昨年の先生の葬儀での御長男・中村 健さんの挨拶で、いつも先生から「口先だけじゃなくて行動に示せ。」「俺は行動しか信じない。」と言われていたこと、父から学んだことは、（１）家族はもちろん人の思いを大切にすること。（２）物事において本当に必要なことを見極めること。（３）必要なことは一生懸命行うこと。 であったと話されています。また、父のやってきたことの根底には、自分のことよりも人を思う性格やどんな時も本質を見るという考え があったのではないかとも語っておられます。

人の「思い」を大切にし、「本質」を見極め、「行動」する。

先生のこの教えに、私たちひとり一人が決して忘れてはならない、人としての「真理」があるように思います。

「平和」を実現するということは、イデオロギーや理屈ではなく、ましてや武器や軍事行動でもなく、人々が豊かになること、毎日のごはんが食べられること、それを実現するための行動であるということを、中村先生は、自らの姿と行動で世界中の人々に示されました。本当の意味での「平和」や「安全保障」とは、「私たちが己の分限（ぶげん）を知り、誠実である限り、天の恵みと人のまごころは信頼に足るということです。」という先生の言葉が示す、先生の行動のように、現地の人々に根ざした「行動」によってのみ実現されるのだということを私たちに教えてくれています。そういう意味で、「平和」の実践者たる中村先生は、まさに現代の「偉人」であり、ノーベル平和賞にふさわしい方だったのではないかと思うのは

私だけでしょうか。

もちろん、誰でもが中村先生のような凄い「行動」ができるわけではありません。しかし、私たちひとり一人も、「平和」の実現のために、身近なところから、できることから、ささやかなことから「行動」することを実践していかなければと思います。

宗高・宗中のみなさんと共に **中村 哲 先生の「生き方」と「行動」から深く学びたい**と思います。

第３波と言われる新型コロナウィルス感染拡大が、東京や大阪、北海道、東海地方を中心に**全国的に過去最悪の深刻な状況**を呈してきました。大阪や北海道旭川市では、医療崩壊の危機も叫ばれています。

改めて、**私たちひとり一人も常に最悪の状況を想定し、自分たちでできる感染防止対策をこれまでにないくらい、徹底的に取り組まなければなりません！** 学校でも、換気・消毒の徹底を今まで以上にやっていきます。また、加湿空気清浄機をすべての教室に設置することも決定し、機材の到着を待っている段階です。

また、みなさんたちの家庭でも、感染防止の徹底について、改めて見直し、実行してほしいと思います。ちょっとでも体調がおかしい、発熱している、味覚・嗅覚がいつもと違う、と感じたら決して自分をごまかしたり、無理をしたりしないで、適切な対応を取ることを心がけてください。

校 長　　深 瀬　信 也